

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1170700163		
法人名	株式会社SOYOKAZE		
事業所名	岩槻ケアセンターそよ風		
所在地	埼玉県さいたま市岩槻区飯塚1280-3		
自己評価作成日	令和5年10月9日	評価結果市町村受理日	令和5年12月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号
訪問調査日	令和5年10月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

利用者一人ひとりが今何を必要としているのかに気づき、その人らしく自由に楽しく安心して清潔な暮らしを送っていただけるよう支援する。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

・「衣食住」の充実を柱に、入居者の生活習慣を大切にしながら、毎日を楽しみ、居心地よく過ごせる環境づくりに取り組まれている。コロナの第5類への移行に伴い、行事などがより積極的に行われるようになり、恒例のお花見やデイズニーシーへの外出支援が実施され、入居者も職員も家族にも喜ばれている。
 ・運営推進会議は、オンライン方式から対面方式での開催に努められ、参加者の顔が直接見える形での会議が行われ、事業所の取り組みの報告を行い、参加者からの意見要望を聞き取るよう取り組まれている。
 ・目標達成計画の達成状況については、家族に入居者の様子を知らせるコミュニケーションづくりを取り上げ、手紙や写真を送るなどの手段が検討され、現在も継続的に取り組まれている。また、災害対策での近隣の協力を得る取り組みも、コロナの終息に合わせて民生委員などへの声掛けが検討されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はセンターの誰でも見られる場所に貼り出して、常に共有できるようにしている。	「きれいな衣服、最期まで口から食べる、自由な暮らし」を理念に謳い、毎日のミーティングでも唱和されている。職員も理念を理解し、入居者の表情や行動を大切に、一人ひとりを尊重し、その人らしい生活を目指したケアが実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	センターの行事等に近所の方を呼んで、一緒に参加していただく。又、利用者達は散歩などに出掛けて、挨拶などを交わしている。	コロナ禍を理由にせず、民生委員の方から地域の情報をいただき、事業所の行事にも地域の方に声掛けをして来所いただいている。行事を通して地域の方と入居者が交流を図るなどのつきあいも生まれ、協力的体制も作られている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括支援センターへの協力や、民生委員の方々と事例検討会を実施している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ感染拡大防止のため、実施を見合わせている現状だが、基本的にはセンターでの行事や日常のことを報告して、また、実際に行事に参加していただいた感想等をいただいている。火災訓練を運営推進会議で行い、実際に避難の状況を見ていただいた。消火訓練にも参加していただいた。	これまでのオンライン方式から対面方式での開催に努められ、参加者の顔が直接見える形での会議が行われている。事業所の様々な取り組みやイベント実施の報告を行い、参加者からの意見要望を聴き取るよう取り組まれている。	運営推進会議は、外部の方の意見を伺う良い機会であると想定されることから、特に家族の方が参加しやすいように関心のある議題を取り上げるなどの工夫を図る取り組みに期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	福祉課の方とは生活保護の利用者について、何かとお世話になっている。	区担当者とのコミュニケーションが図られ、入居者の要望に対する対応方法や困りごとの相談などが日常的に行われている。行政からの情報は主にメールで送られ、介護関係だけでなく生活保護担当との連携もなされている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を開催し、正しい知識を身につけて拘束しない対応をしている。	「危ないよ」、「どこ行くの」、「早く寝たら」など、つい出てしまう言葉による拘束を最も重視して指導が行われている。言葉ではなく、常に職員が気を利かせて「動く」という信念が事業所のポリシーとされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止委員会を作り、常に発信し、実践の見守り等をお互いに行っている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	認知症が進むことで必要になることを学び、実際に社会保険労務士の方との連携もさせてもらった。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	必ず説明し、理解していただいた上で、契約等を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見をいただいて実行している。デイズニーシーの実行。	「外に散歩に出たい」、「〇〇が食べたい」などの入居者からの意見・要望には出来る限り応え、恒例のデイズニーシー旅行も実施されている。家族からは「職員が変わったら連絡して欲しい」などの意見も出されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議や申し送りの時に意見を出してもらっている。	会議でも日常の現場でも職員同士の意見交換はスムーズに行われている。「入居者に関われる時間を少しでも確保したいので業務のやり方を変更したい」、「入居者により楽しんでいただく方法は」などの意見が出され、運営にも活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が足りていない状況の中、なかなか満足のいく職場環境には至っていない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	日々実践、指導をして、機会があれば研修へも参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	自社内でのネットワークはできている。在宅支援関係での活動からのネットワークは実践している。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	必ずアセスメントを行い、本人からの気持ちを探っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人だけではなく、家族とも話をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族との会話に基づいて、今でしょ！というものを導入している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割をもち、お互いに行えることは協力している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が協力できることは遠慮せずやっていたらいい。みんなで支えあう。		
20	(8)	○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力は必要ではあるが、実施できている。	入居者が昔読まれた書籍や使っていたものを大切にあげると、馴染みの物への愛着が途切れないよう支援をされている。昭和時代のDVDの映像を流したり、近隣の方が訪ねてきて入居者と友達になるなど新たな馴染みの関係も作られている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	座席の配置、利用者の行動を見ながら、孤立させない支援をしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用者が亡くなった後でもご家族が何かと訪ねてきてくれる。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	しぐさ、動き、言葉などで気持ちを把握しよう努めている。声かけの反応で理解している。	「あなたのために」の気持ちでそれぞれ一人ひとりの入居者に接し、会話し、動きなどを視ることで思いや意向の把握につなげられている。その時、その人に一番合った声掛けを行い、気持ちの壁を低くするよう取り組まれている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人から出た言葉や家族との話の中で把握できている。(アセスメント)		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その日の体調だったり、話し方などで現状の把握はできている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	一人ひとりの課題は本人の言動やご家族からの聞き取りで見つけ出し、楽しみや安心な生活に向けた計画を作成している。デズニージーへ行つて、思い切り楽しむために、リハビリしようとか、しっかり食べようとか、薬は飲みましょう！	楽しみの実現や安全な生活のために「リハビリを使用」、「しっかり食べよう」などが目標に盛り込まれたケアプランが作成されている。入居者や家族がどんなケアを望まれているかを考え、そこから具体的な目標が決められている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護経過記録にケアプランのナンバーを書き込み、実践できたか？見直しが必要か？を考えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	在宅支援、包括で行っている運動教室など、無料で参加できる情報は発信しているが、現状実行には至っていない。		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公共の運動公園や寺社などに手作りの弁当を持って出かけている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅対応のクリニックへ移行。夜間でも休日でも適切な医療を受けられるようになっている。	かかりつけ医への受診時には職員が付き添い、医師との情報交換が行われ、適切な医療が受けられるよう取り組まれている。協力医療機関も含めて、医師からの情報はその日の申し送りノートに貼り付けられ、全職員に周知がなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間対応になり、直接医師から指示が得られている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必ず職員が付き添い、内容を把握し、できる限り病院へ出向き、情報をいただいている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階で利用者からターミナルの希望があれば、ご家族・医師との話し合いを実施している。(ターミナル実践。ご家族の見守り中、息を引き取られた)	終末期や看取りに際しては、家族の考えが段階ごとに替わることがあり、管理者だけでなく職員も関わりを持ち、話し合いが続けられている。「入居者・家族はそのときどうしたいのか」の経験を積み上げ、できる精一杯のことをさせていただきよう取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生訓練は年2回ほど。急変の対応は、日々の実践の中で身に付けている。近隣の方との関係づくりに取り組む努力をしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回のセンター職員での訓練は行っている。運営推進委員会の方達とは行っているが、ご近所の方達の参加はない。	水害や火災を設定し、昼夜両方の訓練が実施されている。周囲の環境を考慮し、特に水害についてはハザードマップの確認、避難所の場所も明確にするなど対策マニュアルも作成され、万一に備えられている。	災害発生時には事業所だけでなく、周囲からの協力が必要と想定されることから、近隣の民生委員の方との連携を図り、様々な事例を通しての訓練を実施されることに期待します。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者の人生を把握し、その人なりの対応をしている。してもらった事への感謝の言葉、できなかった時の今日はたまたま、不安な時の過剰な声かけはNG。	排泄介助や入浴時の対応、入室の際や私物へ触れる時の声掛けなど、プライバシーへの基本的な対応が行われている。また、その人らしい習慣も尊重され、朝の整容や服装選びなどにも、一人ひとりに合わせた対応がなされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	いくつかのヒントを出して、そこから選べるような工夫を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調や表情などで把握して、その人がしたいように過ごしていただいている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好きだった色やデザインなどを聞き出して支援する。新しいものたまには買ったりする。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	リビングで調理しているため、音や匂いなどで楽しみになっている。味見なども積極的に行っている。	日常は専門の職員から食事を提供され、「最期まで口から食べる」にこだわった支援が行われている。また、行事に合わせてちらし寿司、お稲荷さん、ケーキ、饅頭など季節に合わせたものも提供され、外食も家族の協力を得て行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食べられないものは別メニューで出している。トロミを使ったり、大きさを変えたりしながらしっかり食べてもらっている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	声かけや準備、又は全介助にてケアをしている。		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	チェック表により時間帯を把握したり、動きや表情などで支援している。	トイレでの排泄を基本に、個々のタイミングでの声掛け誘導が行われている。失敗され洋服を汚した時は、気に入っている洋服を用意し、「今洗濯しているから洗濯させて」と話しかけ、羞恥心を感じさせないよう工夫が図られている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食べる量や時間帯、水分の摂取など工夫している。医師に相談して服薬もしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴される方、昼間に入浴を希望される方、その人の希望に合わせている。	曜日や時間は決めないで個々の希望を取り入れて入浴され、個浴中心で仲の良い同士と一緒に入られるケースも見られる。自立の入居者にはやれることはやっていただき、職員は入居者から見えない位置で見守るなどの工夫も図られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝や体調不良時や不眠時などに応じて、自由に休息していただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	利用者の病歴を知った上で服薬の支援をしている。薬の副作用等も常に勉強している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	縫物やパズル、折り紙、カラオケ、作品作りなどの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナで実施が難しい中、工夫して行っている。	積極的に外に出ることに取組まれ、お花見やお店での買い物などへの支援が行われている。また、恒例となっていたディズニーシーへの訪問も復活し、入居者や職員だけでなく、家族からも大変喜ばれている。	

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理できる人は財布を持っていて、買い物もできている。管理できない方でも職員と確認しながら財布を持っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族からかけて良い人の番号を聞いておいて、本人が希望する時はいつでもかけている。手紙の支援も実施している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓が大きく、いつでも開けられる状態にあり、光も風も感じている。	居室から出て共用部で集まって過ごされることが多く、話をしたり、パズルを楽しまれたり、洗濯物を片付けたりとそれぞれに居心地よく過ごされている。廊下には途中に座れる場所が設けられ、入居者同士や職員と楽しく会話をされる姿も見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	和室があつたり、廊下に椅子があり、自由に使用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅でも使用していた布団や鏡など、いつも使っていたものを持ってきていただいている。	入居者それぞれの動きに合わせてベッドなどの家具の配置がなされ、安心と安全な生活が送れるよう支援されている。鏡台やテレビ、携帯電話などを自由に持ち込まれ、個々の生活を過ごされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下両サイドの手すりや和室の高さ(小上がり)など、利用者が自分でできると応援している。		

(別紙4(2))

事業所名: 岩槻ケアセンターそよ風

目標達成計画

作成日: 令和5年12月12日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議でご家族様や関係者の方々が関心のある議題を取り入れる工夫が必要	運営推進会議で出たご意見やご要望を反映させる	・会議で出たご意見やご要望の結果をその都度書面または口頭で報告 ・会議の日程を毎回告知して、ご参加を促す	3ヶ月
2	35	災害や有事の際に周囲からのご協力を得られる体制づくり	災害や有事の際に近隣や周りの方と協力し合える関係をつくる	消防、災害訓練の際には近隣や地域の民生委員の方にご参加頂き、ご協力頂ける関係を構築する	6ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。